

対アフリカ協力への提言
- アフリカが必要としていること、
日本ができること -

神戸大学大学院国際協力研究科

高橋基樹

2008年3月10日

@ワシントン開発フォーラムBBL

JICA米国事務所

対アフリカ協力への提言

- 日本国内の動き
- TICADの来し方
- イメージング・ドナー問題
- TICAD と日本の支援

TICAD / G8に向けて

- 国内の動き

海外経済協力会議

参議院政府開発援助に関する特別委員会

外務省「国際協力に関する有識者会議」

財務省「アフリカ研究会」

JICA「アジアの経済成長とアフリカ開発」検討会

財界のアフリカ・シフト

マスメディア

自由民主党外交関連部会合同会議

TICADブームの陰で...

- 格差社会、ワーキング・プアー、“パラサイト・ニート”
- 「改革」の逆戻り、円高、株安...
- 高齢化と財政逼迫、経済規模の相対的低下

TICADブームの陰で . . . (2)

「私どもも、(中略)選挙区で(中略)ODAの話と言うのは非常にしにくい。選挙には何しろプラスにはなりようがない(中略)、特にシャッター街と化した商店街の中で一生懸命苦勞しておられる人たちに対して、見たことも聞いたこともない国に対して血税を使わなきゃいけないということを説得するというのは大変難しい作業 . . .」(参議院ODA特別委員会(2007年2月27日)における犬塚議員の発言)

TICADブームの陰で . . . (3)

- 参議院ODA特別委員会(2007年3月14日)
における意見陳述

営利追求活動により生ずる経済のグローバル化の下で「日本人という集団が他の人々の問題にどれだけ深い理解を持ち、近視眼的な利益を超えて心を寄せるのか . . . (中略)それは、日本人の品位、知性、そして感受性の問題」「そうした形でほかの人々と共感を持って行動することが日本人自身の広い意味での安全保障になる」

TICADブームの陰で . . . (4)

- 「僕は、ちょっと、ちょっと待ってくださいよと…(中略)日本という国は金が幾らでも余っている慈善団体ではありませんから、税金に基づくODAという限られた予算の中で国家の存在があり、意思があり、戦略があるわけですから、人間としての共感だけで援助ができるわけではないと思うんですね。」「そもそも今のようなアフリカになってしまった原因はどこにあるのか(中略)第一義的にはヨーロッパがやるべきじゃないのか…」(参議院同委員会(2007年3月22日)での高野議員(当時)の発言)

TICADブームの陰で . . . (5)

- 一義的な責任はヨーロッパにのみある？
将来への一義的な責任はアフリカにこそ
- 麻生前外務大臣の発言
「われわれはアフリカについては無知…」
- 補助的な責任しかないとすれば、TICADプロセスとは一体何なのか

TICADの来し方

- 1997年 「東アジアの奇跡」神話の終焉
ODA予算の収縮の開始
- 1999年 拡大HIPC救済スキームの発足
バーミンガムからケルン、そして
グレンイーグルスへ
ジュビリー(祝祭)と「破産国家」
→ 「貧困削減戦略の時代」
援助の調和化・アラインメントの潮流

TICADの来し方(2)

- 2000年 九州・沖縄サミット(アフリカ3か国およびタイの首脳が出席:先駆的試み)
日本による先駆的試み
ミレニアム開発宣言
FOCAC(中国・アフリカ協力フォーラム)開始
- 2001年 同時多発テロ
外務省の危機の表面化

TICADの来し方(3)

- 2001年 NEPAD策定
- 2003年 TICAD
アフリカ経済全体の急成長の開始
- 2005年 グレンイーグルス・サミット
アフリカへのODA倍増、年間500億ドル積み増し、
国際機関(IDA・IMF・ADF)への債務の減免へ
- 2006年 FOCAC北京首脳会議の成功

イマージング・ドナー問題

- 北京コンセンサス？
平等互惠・相互不干渉に名を借りたDACコン
センサスの掘り崩し？
- 日韓併合後100年：韓国の先進国化
- 「南」の群雄たち：インド、アラブ諸国、東南アジア
諸国、南アフリカ、ブラジル...

イメージング・ドナー問題(2)

- 中国とパリ宣言
- アフリカとイメージング・ドナー
中国の「新植民地主義」?
- 日本とイメージング・ドナー
どのような距離が望ましいか

イメージング・ドナー問題(3)

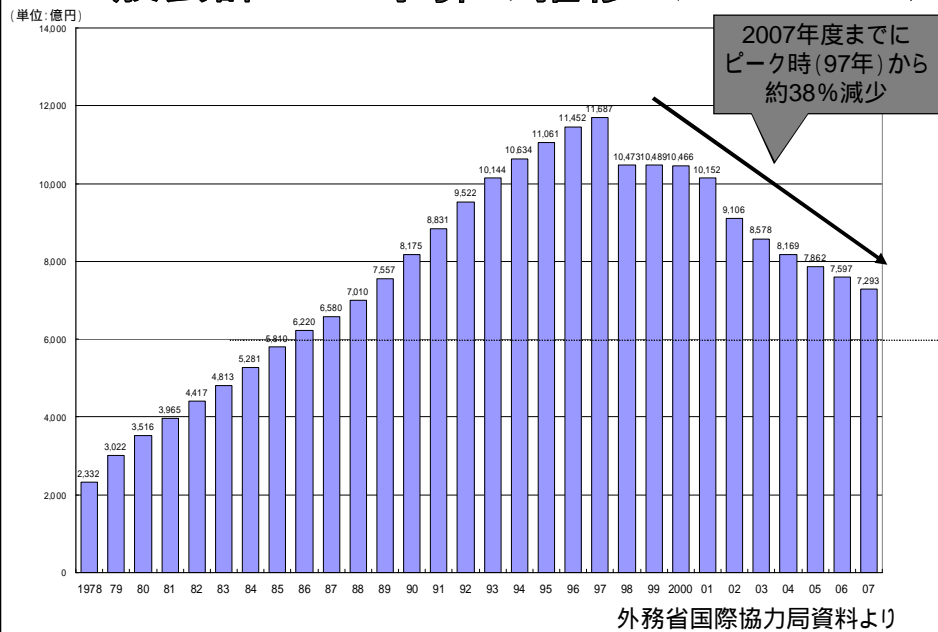
援助によって実現されるべき「国益」、日本が目指すべきイメージング・ドナーとの関係とは?

「日本は経済大国になりましたし、国連でも最も大きな負担をしている国です。世界の途上国への援助も非常に大きい。そういう点は、私は高く評価すべきだと思います。」
「日本は目をもっと世界全体に向け、道徳的に尊敬される国になっていくべきなのに...(後略)」(金大中元韓国大統領の発言、『世界』2008年1月号)

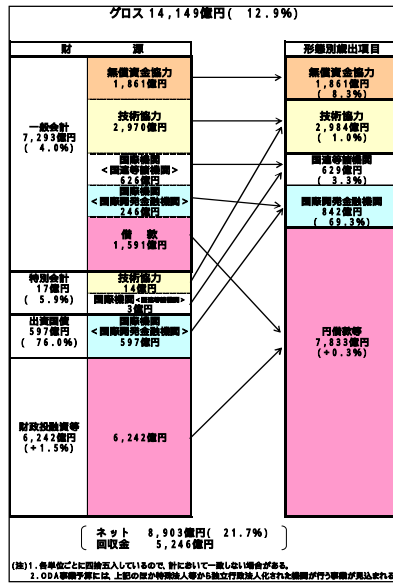
TICAD と日本の支援

- 「TICAD までの三倍増」論？
 - 縮む援助予算(次のスライド参照)
 - 円借款の「逆流」・黒字化
- 借款援助主体のアフリカ支援へ？

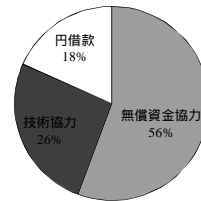
一般会計ODA予算の推移 (1978—2007)



2007年度予算のODA全体の形態別内訳
(出所:外務省資料)



2000-06年 対アフリカODA合計
形態別内訳(グロス)



(注)1. 借入は必ず返済されるもので、計において一致しない場合がある。
2. ODA総額が算には、上記のほかに特別法人等から独立行政法人化された機関が行う事業が算込まれる。

TICAD と日本の支援(2)

- 何故援助改革が叫ばれてきたか？

← 援助の普遍的なジレンマ克服の失敗：

- 「劇場」としてのプロジェクト援助
- 時間的にも空間的にも限定されて展開される援助
- インパクトと自立発展性は置き去りに

TICAD と日本の支援(3)

重債務貧困国救済とは何ぞや？

- 「破産国家」の再建プロセス
- PRSP = 企業再建計画書？
- 踏み倒しへの「追貸し」にならないための処方箋は？

19

TICAD と日本の支援(4)

アフリカでのインフラ建設に向けて...

- 問題はインフラがmaintainableであるための社会的、組織的条件の創出
 - 活用、維持管理、そのための費用回収
 - 制度、組織と人の問題
- 人的資本、物的資本に加えて、制度資本創出の必要性

20

TICAD と日本の支援(5)

TICAD

人間中心の開発

アジアの経験の
アフリカへの移転

経済成長を通じた貧困削減

TICAD

成長の加速化

人間の安全保障

気候変動・温暖化

21

TICAD と日本の支援(6)

既に加速しつつある成長(2003 ~)

- 莫大な資源収入のアフリカ資源国への流入
- 加速しつつある成長は、人々の生活の向上・教育の充実へとつながりつつあるのか
それなしに成長を通じた貧困削減はない
(開発と援助の最重要のポイント)

22

TICAD と日本の支援(7)

何故、人間の安全保障か

人々への注目 (cf. 新ODA大綱)

持続的成長の担い手創出の必要性

(日本・アジアの経験)

包括的な「アフリカ人づくり」計画へ

雇用・技術力の涵養も視野に

23

TICAD と日本の支援(8)

環境問題と開発・貧困削減

死活問題としての環境劣化 =

砂漠化・土壌劣化・森林と水源の減少

(人間の安全保障の問題)

人々の暮らし自体が環境問題を惹起

耕地の一方的拡大・過放牧

環境問題と貧困問題を表裏をなすものとして捉える必要性

24

TICAD のその先へ

- 日本の平和主義とアフリカの赦しの精神
非核三原則
被爆と赦し
アフリカ非核地帯化条約の推進へ
人間の安全保障と平和主義
武器禁輸三原則と小火器蔓延・紛争抑止

TICAD のその先へ(2)

環インド洋ダイナミズムと官民協力

日本と東アジアの共益的發展の鍵は？
労働集約的・取引集約的産業發展へ
包括的人づくり計画
アフリカ型オランダ病を避ける唯一の道
「中間的商業エスニシティ」の問題
Asiansは東南部アフリカにおける華僑
になりえるか

TICAD のその先へ(3)

日系企業自身によるCSR:

自前のインフラ開発

南アにおけるエイズ対策

狭義のODAへの視野狭窄から離れる必要

日本の国内市場開放政策へ

日本版AGOAは可能か？

ご清聴ありがとうございました

神戸大学国際協力研究科

高橋 基樹